ニュース専修

●「専修大学」ホームページ● https://www.senshu-u.ac.jp/

毎月1回15日発行
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819（直）

主なニュース

3年次生第1回就職ガイダンスをウェブで開催……❷
公務員試験講座 合格者が後輩に向けて報告会……❸
Go To学食 生田・神田の食堂で食べよう……❹
おうちでサークル オンラインでの活躍を紹介……❺
【校友を訪ねて】益子焼陶芸作家・藤本左近さん……❻
石巻専修大学 20年度教員採用試験に9人が合格……❼

箱根駅伝 本戦出場決定

7年ぶり69回目

伝統への挑戦 Return to HAKONE

総合10位

7年ぶりの箱根駅伝へ――10月17日、東京都立川市の陸上自衛隊立川駐屯地で行われた第97回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会で、陸上競技部が総合10位（10時間33分59秒）となり、7年ぶり69回目の本選出場を決めた。

予選会はハーフマラソンの10人の合計タイムを競い、上位10校が本戦に進む。冷たい雨が降るなか、専大は序盤から積極的にレースを展開し、10キロ通過時点で6位につけた。終盤、各大学ともペースを上げるなか、1年次生の木村暁仁さん（経営1）が上位に食い込み、チームトップとなる1時間2分44秒で個人44位と力強い走りを見せた。

緊張の成績発表で「10位、専修大学」とアナウンスされると、選手たちは一気に喜びを爆発させた。11位とはわずか18秒差。今年度のスローガン「伝統への挑戦 Return to HAKONE」の言葉通り、部員たちの挑戦が実った。

思い込めた千羽鶴文字「繋」

無観客で行われた今回の予選会。現地で応援できない中、目に見える形で選手を激励しようと「繋」の千羽鶴文字が陸上競技部に贈られた。体育会本部（黒柳陽汰委員長＝文4・豊川高）を中心に各部の学生、職員らが「襷を繋ぐ」「心を繋ぐ」の二つの意味を込めながら1羽ずつ鶴を折った。育友会作成ののぼり旗とともに生田キャンパスに展示され、選手たちを後押しした。

創立140周年・商学部神田移転記念事業

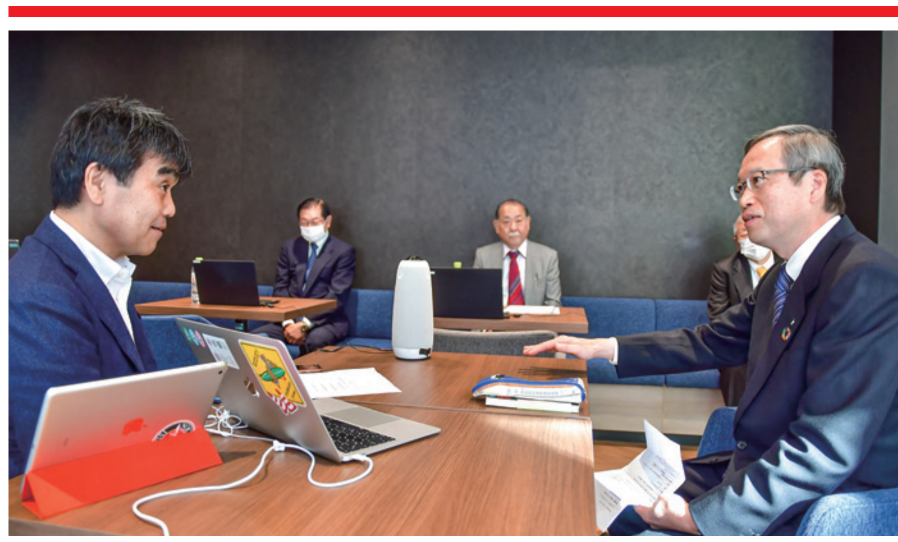
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

神田神保町と新たな一歩

オンラインイベント開催

専修大学創立140周年と商学部の神田キャンパス移転を記念したオンラインイベント「神田神保町の魅力――コロナ禍からの再出発――」が10月31日に行われた。学生や地元の事業者らによるさまざまな報告から、まちの魅力を再確認するとともに、コロナ禍の現状を乗り越える方策を展望した。

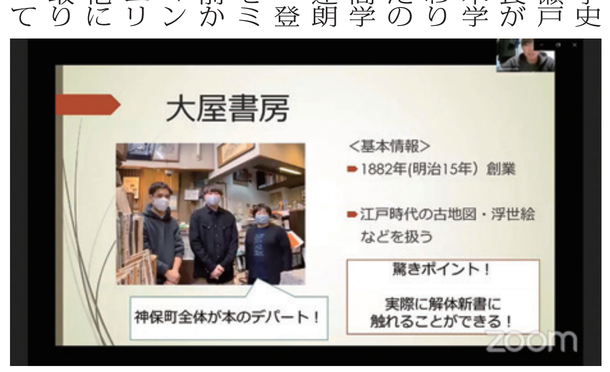
このイベントは千代田区の後援で、専修大学におけるSDGsの取り組みの一環。



リレートークで神保町との連携について語る佐々木学長（右）。左は渡辺学部長

本学大学史資料室の瀬戸口龍一室長が神保町と本学とのかかわりを解説したのに続き、商学部・渡辺達朗ゼミ生が登場。渡辺ゼミでは移転前から神田キャンパス周辺エリアの活性化にかかわる取り組みを行っており、靖国通り商店街連合会サポーター飲食店応援チームと古書店街応援プロジェクトの2グループがこれまでの成果を報告した。

両グループは、まちを盛り上げるために大学生にできることを考え、店舗への取材を通して見つけた魅力などを、SNSで発信している。「SNSを見た人が神保町を身近に感じられるような情報を、今後も継続して発信していきたい」と述べた。



渡辺ゼミ生が古書店街応援の取り組みを報告

リレートークには、高山肇氏（千代田区商店街連合会会長）、矢口哲也氏（神田古書店連盟会長）、稲垣秀明氏（靖国通り商店街連合会会長）、傅健興氏（株式会社新世界会長）、望月正氏（神田神保町三丁目町会長）と、本学から佐々木重人学長と瀬戸口室長が参加。進行は渡辺達朗商学部長が務めた。

矢口氏は、今年は実施できなかった神田古本まつりに代わってオンラインで開催したバーチャル特選古書即売展を紹介し、「家にいながら神保町を楽しんでもらえるような、新しい形を模索している」と語った。神保町で老舗中華料理店を営む傅氏は「渡辺ゼミの飲食店応援の取り組みは非常に心強い。神保町は文化の香りがするまちで、路地裏に魅力が眠っている。今度はそこを掘り下げてみてほしい」と学生の活動に期待を寄せた。

佐々木学長は中学時代から始まる神保町の思い出を交えながら、「神保町は、本や食など、さまざまな分野の聖地」として、「まちと学生がつながることが重要。専修大学も神保町の一部として、ともに歩んでいく」と語った。

イベントを終え、渡辺学部長は、「今回は、地域の皆さんと連携してまちづくりを進める第一歩。これからもさまざまな活動を一緒に進めていきたい」と述べた。

イベントは、神田10号館1階のSENDAI-Kaffeeで開催され、YouTubeで配信。https://youtu.be/0OEGijkzp7gで、アーカイブ配信している。

専修大学・石巻専修大学「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」推進募金

箱根駅伝出場応援募金

伝統校復活を目指して努力する陸上競技部へのご協力をお願いします。

専修大学募金局 ☎03・3265・3157

申し込みはこちらから

専大スポーツ No.412

大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部web（http://sensupo.web.fc2.com/）でも大会結果を配信しています

1年次・木村 チームトップの快走

1年次生ながらチームトップの快走を見せた木村暁仁（経営1・佐久長聖高）。1キロ3分のペースをキープするというプラン通りの走りで、長谷川柊さん（令2商）のハーフマラソン専大記録を2秒更新した。木村は「予選会は先輩たちがこれまで積み上げてきたことが表れた結果。これからが勝負。チームの柱となれるように取り組んでいきたい」と話した。

全員でつかんだ箱根の切符

7人が自己ベスト更新

7人が自己ベストを更新し、ハーフマラソン初挑戦の4人も好タイムを記録した。全員が力を出し切り、箱根駅伝本選の切符をつかみ取った。

満点のレース 長谷川淳監督

落ち着いた走りで期待に応えた木村、チームをけん引した茅野主将、森島をはじめ、選手が持てる力を十分に発揮した100点満点のレースだった。コロナ禍で練習や合宿といった全ての活動を変えざるを得なかったが、一人一人と向き合うことで良い練習ができ、自信を持って臨むことができた。多くの方に予選突破を喜んでいただき、改めて伝統と歴史を感じている。今後も一歩ずつ、着実にステップアップしていく。

練習が自信に 茅野雅博主将

例年とは予選会の形式が異なるため、ペース配分、給水のタイミングといった変更点をチームで共有できるように気を配っていた。また、リラックスしてレースに臨める環境を整えるなど、万全の準備で予選会に臨むことができた。合宿でタフな練習をこなしたことが自信となり、レース中も「もっと頑張れる」と踏ん張ることができた。これまでのトレーニングを信じて、本戦でも力を発揮したい。

【予選会出場選手】

★は自己ベスト。初はハーフマラソン初出場

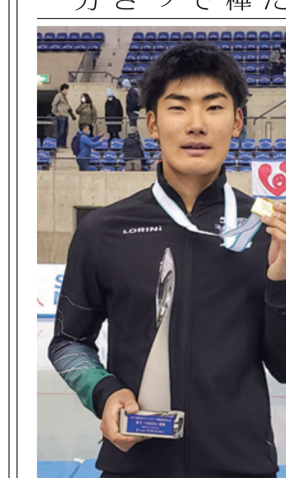
順位	記録	氏名	
44	1:02:44（初）	木村 暁仁	経営1・佐久長聖高
56	1:02:54 ★	茅野 雅博	商4・鶴翔高
61	1:03:00（初）	高瀬 桂	経営2・鳥栖工高
86	1:03:12 ★	森島 嘉大	文4・美濃加茂高
91	1:03:16 ★	南 美空翔	文3・樟南高
99	1:03:22 ★	金久保 遥	経営3・佐野日大高
105	1:03:25 ★	国増 治貴	経営2・豊浦高
130	1:03:38（初）	成島 航己	経営2・専大松戸高
173	1:03:58 ★	佐々木 詩音	経営3・専大北上高
217	1:04:30（初）	水谷 勇登	経営1・敦賀気比高
259	1:05:11 ★	吉岡 拓哉	経営2・我孫子高
387	1:08:23	横山 佑羽	文3・三浦学苑高

男子1万メートル 期待のルーキー・蟻戸

シーズン初戦を制す

全日本スピードスケート距離別選手権＝10月23～25日、長野市・エムウエーブ

男子1万メートルに出場した蟻戸一永（経営1・白樺学園高）が13分28秒94で優勝し、「ワールドカップ派遣選手団」に選考された。5000メートルは6分27秒13で3位だった。



金メダル掲げる蟻戸

「前日は緊張して寝つけなかった」と話すが、本番は集中して実力を発揮した。「フィジカル面を強化したことで、疲れてからも我慢ができる体になった」と言う通り、レース後半も大きく崩れることなくフィニッシュ。今シーズン最初の大会で、目標とする13分30秒を切る見事な滑りを見せた。

「優勝できたことは今後に向けてプラス。コーナー手前の歩数調整がロスにつながっており、コース取りを改善することでタイムはもっと伸ばせると感じた」と振り返るとともに、「来年1月に行われる全日本ジュニア選手権を制し、世界ジュニア選手権でも優勝したい」と次を見据えた。

落合が8位

日本学生選手権水泳競技大会＝10月1～4日、江東区・東京辰巳国際水泳場

長水路（50メートルプール）で行われた大会。女子200メートルバタフライに落合すみれ（経営3・日女体大附二階堂高）が出場した。予選で8月の試合から2秒以上タイムを縮める2分12秒76を記録。決勝はタイムを落としたものの、8位に入賞した。

67kg級 吉永

初の学生タイトル

全日本大学グレコローマン選手権＝10月15～16日、世田谷区・駒沢体育館

67kg級で吉永信太郎（経営3・玉名工高）が優勝し、初の学生タイトルを獲得した。

吉永は隙を見せない試合展開で、準決勝を10―0、決勝を4―0と完勝したが、「今回のようなコンディションでは、12月の全日本選手権で優勝できない。モチベーションコントロールに改善の必要性を感じた」と振り返った。

他の階級では、60kg級で河名真偉斗（経済3・三次高）、72kg級で前田明都（経営4・花咲徳栄高）、130kg級で庄司樹（経済4・岐阜工高）がそれぞれ2位に入賞。55kg級で岡本景虎（経営2・和歌山北高）が3位となった。（塩澤京夏・文2）

相手の動きを制し、優位に試合進める吉永（右）＝準決勝

総合馬術団体 3位入賞

全日本学生馬術大会＝11月1～3日、山梨県馬術競技場

総合馬術競技で丹治翔（経済3・福島東稜高）・リアルモード号組が個人4位となるなど各選手が健闘し、団体で3位に入賞した。3種目（馬場馬術、障害馬術、総合馬術）の総合団体は6位だった。

リアルモード号の鞍上で入賞を喜ぶ丹治。右は近藤主将

丹治は、「初の全日本学生で結果を残すことができたが、悔しい。来年こそ優勝できるように、気を抜かず練習に励んでいく」と語った。同じ競技に出場した松岡翼（文2・東京都立農芸高）、山下翔（文2・京都府立洛水高）も悔しさをにじませ、来年の飛躍を誓う。

大学生として最後の試合を終えた近藤舞宝主将（経済4・学法津田学園高）は、「入賞は、練習の成果を十分に発揮した後輩たちのおかげ。この結果を自信につなげ、優勝目指して練習を積み重ねていってほしい」とエールを送った。（渡邉未来・文2）

ドラフト会議

佐藤奨真投手が千葉ロッテ育成4位

10月26日のプロ野球ドラフト会議で、野球部の佐藤奨真投手（経営4・関東第一高）＝写真＝が千葉ロッテマリーンズから育成4位で指名された。

左投げの佐藤は、伸びのあるストレートを武器に、3年次の春季リーグ（2部）では最高殊勲選手、最優秀投手を受賞。今秋も先発の柱として力投し、防御率1・77と安定した投球を見せた。ドラフト後の会見で、「指名されてとてもうれしい。ここからはい上がる気持ちでしっかり頑張りたい。応援よろしくお願いします」と力強く語った。